



今春こそは、トキのひな誕生を

学校教育課長 山本 充彦

2011、卯年、明けましておめでとうございます。皆様方には、希望に満ちた新春をお健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。

元旦に家族とともに度津神社と真野宮へお参りに行きましたが、年末の予想と違い、比較的穏やかな年明けとなり、例年に無く参拝客が多かったように思えました。

私は、「皆さん、家族が幸せでありますように」「今春こそは、トキのひなが誕生しますように」とお願いしました。

そのおかげか、今年の初夢に佐渡島民の永年の願いであった「トキのひな誕生」を見ることになりました。

昨年3月末、自然界での31年ぶりの「産卵」で、繁殖期が終わるまでに5組のペアが卵を産み、我々佐渡島民の永年の願いが叶うと思われていたのですが、結果は無残で、殆どが無精卵であったり、カラスに巣を荒らされたりと、自然界の現実は非常に厳しいものであり、トキのひな誕生は実現しませんでした。

平成8年に始まったトキの放鳥は、昨年の三次放鳥で13羽が放され、三度に渡る放鳥で42羽のトキが飛び立ち、現在23羽が確認されております。

低迷を続け、日本の経済状況等明るい話題が無い中、昨年末から今年にかけて、群れの合流や求愛行動である「擬交尾」・「小枝渡し」等が見られるとの報道があり、私の初夢が夢と終わらないで、今年こそ、トキのひなが誕生し、それが佐渡の大空を羽ばたき、佐渡の発展に繋がることを願っています。

最後に、本年が皆様にとって、実り多き良い年でありますよう心からご祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

学力向上に係わる学校訪問(2)

下越教育事務所指導主事 本間 健人

昨年6月から実施しています年2回の学力向上を中核とした中学校区訪問も三学期に実施する2中学校区のみとなりました。事務局校や会場校、授業を公開くださいました先生方に感謝申し上げます。

今年度は、全国学力・学習状況調査の結果から明確となった次の課題に全校体制で取り組んでいただいています。

小学校中学年段階の学力不足が、高学年や中学校の学力不足に大きく影響している。学力のある、なしが、子どもの将来に大きな影響を与えている。

今までの2回の訪問では次の成果が見られました。

(1) 授業改善について

多くの学校が研究主題を基に「研究授業」を実践しています。学校体制で成果と課題を検証している学校で成果が表れています。

(2) 年間指導計画の作成・改善

小学校は、佐小研「佐渡地域モデルプラン」作成委員会の資料を参考に自校の事態に即した作成・改善に取り組んでいます。

(3) 学習習慣の確立について

中学校区で、家庭学習「マニュアル」等を作成して取り組んでいる学校が多く見られました。特に、学校と保護者が役割を明確にした取組が効果を上げています。また、予習や復習とともに授業と連携した家庭学習の取組が効果を上げています。

各学校には、年間指導計画の作成・改善に取り組んでいただいておりますが、新学習指導要領が全面実施されるこの時期が、学力向上を図る「授業改善」のチャンスと言えます。

いじめ解消・不登校の発生減少の取組に全力を

教育指導主事 濱田 毅

締め括りの三学期がスタートしました。例年よりも長い冬休みでありましたが、心配していた事故も無く喜んでいるところです。各校での指導に感謝申し上げます。

さて、ご協力いただきました二学期のいじめ・不登校調査の結果がまとまりました。

いじめについては、認知件数の増加が気になりますが、昨年の群馬県で発生した自殺を受けて11月に開催された県教委の指導のもと、各校でいじめ根絶の取組に全力を注いでおられることと思います。

不登校については、校長会で、教育長並びに管理主事からも指導があったと思いますが、小学校11名、中学校49名と、このままの状況ですと、今年度管内の不登校は近年にない数に上ることが憂慮されます。

特に、中学校での発生率が高く、21年度県発生率2.6%を上回っている学校が8校、その内大幅に上回っている学校が5校あり、不登校対策は喫緊の課題です。

家庭やその子の性格等、いろいろ問題があるにせよ、義務教育として学校で預かった児童生徒です。預かった以上、その子の幸せのために何をすべきかを考え、出来ることを精一杯取り組むことは当然のことと考えます。

言うまでもなく、「不登校は、いじめ同様、どの子にも、どの学校にも起こり得る」という危機意識をもって対応することが必要であります。本気で取り組んでいる学校と形式的な取組をしている学校では差があると、武藤県教育長はじめ県のスクールソーシャルワーカーは言っております。

現在各学校で取り組んでおられる「中1ギャップ解消プログラム自校プラン」を適切に見直し、有効に活用するなど、不登校の減少に向けて、各学校で全力を挙げての取組を切望します。

**「成果」と「課題」を受けとめた
次年度に向けた学校づくり**

管理主事 羽二生 裕

新しい年を迎え、子どもたちは新たな目標をもち、三学期を迎えたことと思います。

さて、各学校では今年度の学校評価のまとめの時期となっています。全職員で取り組んできた今年度の学校評価の「成果」と「課題」をしっかりと検討・分析し、次年度に向けた学校づくりを校長先生のリーダーシップの下、確実に進めてください。私の教育信念の一つに『**次の一手は子どもから**』という言葉があります。教師として、次にどのような手を子どもたちに打たなければならないかは、子どもたちが教えてくれます。子どもたちの実態を踏まえて、力をつけたところや伸びてきているところは、全職員で取り組んできた大きな「**成果**」= **子どもの大きな成長**と受け止めてください。また、今一步力をつけたいところや伸ばしてあげたいところは、次年度の学校評価の成果目標に位置づけ全職員で達成するための**具体策を協議し、共通理解を図り、次年度は確実に実践**していきたいものです。

その際、自校の子どもの実態を踏まえ、目指す子ども像を全職員で語り合い、全職員の経験と英知を生かして、次年度に向けた学校づくりを進めていくのが、この三学期となります。今年度の児童生徒の実態を踏まえた、「**次年度の学校づくり**」をよろしく願いいたします。

年未年始、佐渡管内において教職員の交通加害事故が2件ありました。1件目は自転車運転者との人身接触事故。2件目は駐車場からバックで出る際に、停車中の車への衝突加害事故。運転に集中し、最大限の注意を払えば、防ぐことのできた事故と考えます。教育公務員としての自覚をもち、常に「車は走る凶器である」ことを意識し運転してください。寒い日がまだ続きます。

降雪時の運転には、**心と時間にゆとり**を持ち、**安全第一**を心掛けるようお願いいたします